

2013年
9月1日

No.172

さざなみ

〒520-2141

大津市大江6丁目23-24

浦谷貞子 気付

さざなみネット

(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)

TEL・FAX 077-545-5154

金融ユニオン第5回定期全国大会

全国各地の活動をみんなの確信に

金融ユニオン第5回定期全国大会が、8月31日、愛知県豊橋市民センターで開催され、全国から代議員・役員・オブザーバー39人が参加、さざなみネットから浦谷分会長が代議員、山崎書記長が本部役員として参加しました。

議長に浦谷代議員と関東甲信越支部のS代議員が選ばれました。

浦野委員長は「国政選挙で、議席のうえでは自公の与党が大きく議席を伸ばしながらも、景気回復、働く雇用条件改善、将来の生活安定など国民の期待が開ける状況にない。金融ユニオンは1年間16人の仲間を迎えて組合組織を維持しており、外資の解雇攻撃にも、雇用を求めて闘いを進めている。全国各地の活動をみんなの確信にしていこう」とあいさつをしました。

下記日程のとおり、松井書記長から議案が提案され、代議員やオブザーバー21人が、各支部や分会の状態、裁判などの闘いの現状・課題、非正規労働者の状況、男女差別、パワハラ、財政などについて発言し、議案について審議しました。

審議終了後、すべての議案が全員一致で採択され、新年度の執行委員の中から、三役が次のとおり選出されました。



新三役(委員長) 浦野 弘(再)
(副委員長) 伊藤宗孝(再)・山崎幸雄(再)
(書記長) 松井美智子(再)

第59回日本母親大会in東京

生命(いのち)のスローガンを掲げ、子どもたちの明るい未来を願って、「第59回日本母親大会in東京」が8月24・25日開かれました。

1日目は全体会、2日目は子ども、働き方、男女平等・・・など35のテーマで分科会やシンポジウム、見学分科会が行われ、述べ12,700人が熱心に思いや経験を交流しました。(裏面へ)



岩波 美智子さん 画

第4回定期全国大会日程

8月31日(土) 13時~17時

- 開会宣言・代議員紹介・議長団選出・大会役員選出
- 中央執行委員長あいさつ・祝電・メッセージ披露・経過報告
- (議案提案)
- 第1号議案 2012年度の運動のまとめ
- 第2号議案 2013年度の運動方針
- 第3号議案 秋季年末闘争について
- (議事審議)
- 第4号議案 2012年度決算・2013年度予算
- 監査会計報告
- (議案審議・議案採決)
- 第5号議案 委員長・副委員長・書記長選出
- 第6号議案 上部団体への役員派遣
- 金融労連定期全国大会への代議員派遣について
- 閉会のあいさつ

理想を掲げてそこに一歩でも近づく それが憲法を知った者の責任

(前面から) さざなみネットから、坂下さんと植木さんが参加されました。

坂下さんから感想をいただきました。

23日夜11時大津京駅からバスで出発、大津駅前からもう1台のバスが合流、途中名神のインターで数ヵ所参加者を乗せて一路東京に向かって走ります。早朝着いたため、スカイツリーを下から見学、全体会の幕張メッセでは12時30分開会です。

私学大東学園高校の男子生徒によるHIP・HOPダンスで若さあふれる躍動的なオープニングでした。

参加者は全国から7,500人、会場はそろいのTシャツやうちわ等、お母さんパワー全開です。

記念講演は伊藤塾塾長で弁護士の伊藤真さんの「憲法のいきづく国に—私たちの求められるものは」と題して、立板に水のように話されたということでしたが、私はバスの中で寝られなかったので講演中はうつらうつらとしてしまい、話がつながらない状態でした。(このことは帰りのバスの中でも今後の課題として話が出ました。)

ただ一つ「憲法を知ってしまった者の責任」で、まわりの人たちに日本国憲法の理念を話していくこと、平和憲法を守り抜くこと、と大きな宿題をもらったように思います。

2日目の分科会は見学分科会が抽選で当たり、「江戸の文化と暮らしを訪ねて」に参加、全国から40人がバスで巡ります。助言者は工藤芳弘さん(都教組委員長)、生憎の雨の中、富岡八幡宮から「深川の八幡様」と親しまれ、今も昔も変わらぬ信仰を集める江戸最大の八幡様で、

広い境内では多くの骨董市が出ていたが雨のためか客足は少なかった。木場角乗りの碑、深川力持ちの碑、歴代横綱の碑、大関の碑、伊能忠敬銅像と多くの旧跡や石碑があった。

次に行った深川江戸資料館は、江戸時代末期の深川の街並みを想定して復元されていました。表通りには大店と白壁の土蔵や船宿や火の見櫓がある。そこに住む人々の家族構成や職業、年令まで設定し、暮らしぶりにあった生活用品が展示してあった。

共同スペースには、井戸、便所、ごみ溜め、稲荷があり、長屋は壁一つでプライバシーもあったものではないが、そんな中味噌、醤油が足りなかったら貸したり借りたり、他人の子どもでも悪いことをしたら、怒ったりしていただろうと思われる江戸時代と、餓死して冷蔵庫の中にも何もなくて誰にも知られないで何カ月もなる今の時代、考えさせられる資料館でした。

バスの中では街並みについて説明を受け、中川船番所資料館や芭蕉記念館と彩菜館を見学しましたが、隅田川のほとりで芭蕉の像がビル群に向かって座っているが何とも違和感があり東京らしいなあ〜と思いました。(坂下)

